



室町殿家式

中

二冊
三十一
尺

特 別
73
7082
2



室町殿家式申

條

一 具持けりきと人き此事者りりて
たらりたりしりふら常小重て並
右とらへる重て

一 結のる梅事一右へ一ま記をく上りひき
とて強へりて又二ま記梅らいて
又上りわひきとてかけられりて先
く振て大ゆいぬらひひりてとら
りへ押ふりし是もとらりけて



成るうまわあるうー但決時たりわあ
うーなるーわうを何進とあ方とーわ
あうはとわう又りーわあうはわわあて
わう元先あてまはううーきなる後う押
うう時をけりううーらあう大あう
押ああるう

一 右ゆけ結めあ所の事先をまうたう
まじゆらひよまらひききう一まてああ
うり大ゆひと掛又とーわひあううー又
右へ二巻まらうーと三巻して又とら



ひききう一けてまは一ま抄けああ
まああうーとまああうーとまああ
あうりううまう押ああーああ
うううううううううううううう
一 抄けとまうううあま一先も右と
わううううううううううううう
ううのまううううううううう
ううんそまうううううううう
ううてまもまううううううう

皮し結のわりし一多めてゆけの幸此遠
しつらし

一 志ききるの軍陣乃たゆけの結の夜
柳の幸一 柳乃たゆけ何し一 じまひ元
じまひてとじまひるるの幸一 じまひ
しつらしとじまひるる一 じまひてゆけ
ゆけ不幸也

一 具ゆけしつらしつらしつらし
つらしは主役村を一 従者對する村
あつはあつとつらし結もるゆけして村

一 是れ大指乃ゆけとつらし
はつらしきなるわ

一 主役ゆけしつらしつらしつらし
主役人のゆけ、主役乃ゆけはつらし
若くはわたりし主役はたつらしとじまひ
わたりし主役乃ゆけしつらしつらし
ゆけしつらしつらしつらしつらし
一 主役乃ゆけしつらしつらし

一 具ゆけしつらしつらしつらし
将のつらしつらしつらしつらし

一 此はけしきはきりさつにんしんははらふくは
一 法的に是れはきりさつにんしんははらふくは
おんをきりさつにんしんははらふくは
一 夫人も人へらふくははらふくは
て推しりてしすよを右のしんははらふくは
さびかすてむにけりおんか人の前を
おんしんははらふくははらふくは
きりさつにんしんははらふくは
うけしよの成りしんははらふくは
右のしんははらふくははらふくは

一 此はけしきはきりさつにんしんははらふくは
わんしんははらふくははらふくは
かけりしんははらふくははらふくは
う又あしんははらふくははらふくは
しんははらふくははらふくは
りしんははらふくははらふくは
しんははらふくははらふくは
一 うとましんははらふくははらふくは
前しんははらふくははらふくは
しんははらふくははらふくは

とてき成すつりよまきくちよつこして後く
そ成りてをうらむ此後所は日し矢の出候
の事とて昔年一かくとよめはひきさらむれは
内く福とよんてまじくまらかり候と
可矣紐ちつちわささるめさなれ候と
よつこのをくちのよめあつちと好方
主人の者のあつちがらひせしむる
いふもくし進退く無動とて人し矢の
なめはくとまじく

一 等年一つとて知事年おつち候所はあつち

ひらけてあつち人のあつち候所は
うらむ一たのよめあつち候所は
よと候者のあつち候所はあつち候所は
とよまらつて候とよめあつち候所は
あつち候所はあつち候所はあつち候所は
候とまじくし又等年一矢の候所は
あつち候所はあつち候所はあつち候所は
あつち候所はあつち候所はあつち候所は

一 主貴人の法より又年一はあつち候所は
あつち候所はあつち候所はあつち候所は

わがくしてあひあそゆかへーかこまめを
をゆまのちと結ん若結あまはまの結母一
ゆまのまのひ結とちよの石あまのちかて
ねら成じまふたり新の方に結あかへー
又撫とまこらちまは撫とまはて其結と
前のこくふ包てあまー若又な敷もて
苗座ふひりふ人の可もあまこく何を撫を
とまこりぬまの詞とばひてこく結あまの
あまーそまも若まのちの結あまの
こひこらまは結一見針てよ結あまの

- 一 ころあしこるー又結あまのちあまのちあ
ゆまのちとまを結あまのちあまのちあて
あまー一漢りまのー一
- 一 扱る各は假初あてちとあま持多と若あ扱
る
- 一 扱乃ちと重あーて扱もとて二重あまの
ちのまー扱まのちあまのちあまのちあ
てあまあまのちあまのちあまのちあ
扱まのちあ
- 一 主貴人亦は若のちあまのちあまのちあ

一 的ろろじりしり事一 善ふ成ら耐しり
おのそくましりきりしり事一 福はくしり
脚時的とあらじりしり事一

一 衆的の耐ありし焼られたる事ありあり
ちしり一はえ斗一 女と焼命一
はくしりし耐はくしり事一
能かありしり事一 焼きたる事一
斗しりし事一 焼きたる事一
さる耐ありし焼きたる事一
一とと地しり事一 焼きたる事一

いの本りありしり事一 守りありあり
さるありしり事一 守りありあり
守りありしり事一 守りありあり
りしりしり事一 守りありあり
そのありあり

一 半の本ありしり事一 守りありあり
守りありしり事一
守りありしり事一
守りありしり事一

ういあわやいこわのぬいしちん〜
ふりやうにきり〜

一 きく村おの事 ねの松柳の松柳の松
菊の紫花あきくうらな 柳の道の
又その橋をよけしなむのち

一 わり祝ふらんこむりしこむりし馬と家
あつふふたけいこむりしあつふ
一 わりしこむりしあつふのちのあつ
う〜と〜わ〜と〜わ〜と〜
一 けりひさのぬい〜と〜と〜と〜と〜

あつふ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜
あつふ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜
あつふ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜

一 大むき〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜
たつふ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜

一 一人の地〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜

一 村〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜

一 わり〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜

一 けり〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜

一 けり〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜

一 諸ういふ苦のともくううふねえ
はくまひて物々々々是うとよあて
んまてけし

一 是うの事 前うの是うとてい
わくは物々々は存の是とあせなり
ゆへいんを命しううも物々々
とある 但利時存の是と考し命し

一 付果して物々付の是の事 前うハ辰六
ヶ辰是かむ書載かて 後う前辰
とく成命し 但是も書り計にくと

合息ゆきかて 一 爲有之 物々付と前う
後うし見多くとれ 一 出五とて
物々命し

一 的ふさ度めりつひし事ハとてい
しけく一度是とほひて一度物々付
んて初めと是めてななり

一 経きれり年 一 ねりし 一 上乃
はうわしとこれらハ下名飛地なり
と決の経緯のりわしとてぬあて
是と引出あてしとて 一 二度述

まわくそわくあらずは去後志ぬわあて
あへ—若又—管のわあはなぬり
れりふとわほくゆり金—縁のまれば
あふあはれし—無添あつくハわあて
お魚—板取あてりてもうわあ—とてわて
村魚—但もわの時う—えんわつ—次法
習とわてし若と村魚—

一 うちあつて奉—うち杖あけるを海う—とり
はえとけく金—若つぬぬ福ふ—ゆあは
お魚—はわ—とてう—たぬ足—とてふ

あさく是城のあて後ふはく帰る海ふかて
あへ—あま—らうと集て屋村—う若乃
わ—と—あま—中—は中—あま—あ
とはあめあふか—てわ—あ—
金財とせ—く—あ—

一 村くあまきあはは—くわ—あ—あ
さ—あ—あ—あ—あ—あ—あ—あ—あ—
い—あ—あ—あ—あ—あ—あ—あ—あ—
あ—あ—あ—あ—あ—あ—あ—あ—あ—
あ—あ—あ—あ—あ—あ—あ—あ—あ—
あ—あ—あ—あ—あ—あ—あ—あ—あ—

廣く二人のりまわらば斗て往行もまへ
三人のすけりて御へ——去りて清西の所は
我の毎々今からちいさく——行方新也
うらぬの也何くまへ——安ぬいこまへ——
うらふもと成り人——今りのかやの事
そのわら成まへ——てうらむのわら成
わらまへ——まら成とまへ——古へ成り成
まへ——まら成とまへ——たへまへ——まへ
まへとまへ——まへまへ——のまへりまへ
まへとまへ——まへまへ——まへまへ——

一 初果して教はるふ事なる事——たは御をまへり
へ入りまらぬまへ——まへがし成るのまへ——お成
成るまへ——まへまへ——まへまへ——まへ
て同じまへ——まへまへ——まへまへ——まへ
まへまへ——

一 福の治やの事——地くふまへ——まへまへ
治りまへ——まへまへ——まへまへ——まへ
まへ——まへまへ——まへまへ——まへ
まへまへ——まへまへ——まへまへ——まへ
まへまへ——まへまへ——まへまへ——まへ
まへまへ——まへまへ——まへまへ——まへ

一 夫の多ありし事 せうげ大的善なるお
つりのよころあふらりて 善なるとらるわ
一 大的のうーい 善なるとらるわ 大的のうーい
わうきり

一 大的のうーい 善なるとらるわ 大的のうーい
わうきり 善なるとらるわ 大的のうーい
善なるとらるわ 大的のうーい

一 大的のうーい 善なるとらるわ 大的のうーい
わうきり 善なるとらるわ 大的のうーい

名れりて 大とて 善なるとらるわ 大的のうーい
大的のうーい 善なるとらるわ 大的のうーい
大的のうーい 善なるとらるわ 大的のうーい

一 大的のうーい 善なるとらるわ 大的のうーい
わうきり 善なるとらるわ 大的のうーい

一 大的のうーい 善なるとらるわ 大的のうーい
わうきり 善なるとらるわ 大的のうーい

一 おにのよりのわさく人まけし出まけけわらさら
的はさり

一 三日月のよき人まけけわらさら

一 武田と南家らういふ事屋のときのおい
わらやーまゆりふらまてくらのあゆけ
の徳のあやー遠くはるり

一 わらうらまのよわらうまてくらのあゆけ
わらうらまのあゆけまてくらのあゆけ
まてくらのあゆけまてくらのあゆけ
まてくらのあゆけまてくらのあゆけ
まてくらのあゆけまてくらのあゆけ

一 ざり人あてふ中になまきる也

一 教つるのすけの事 海りりまてくらのあゆけ
二すつらまてくらのあゆけまてくらのあゆけ
して二日月のあゆけまてくらのあゆけ
あゆけのあゆけまてくらのあゆけ
らるる

一 人のあゆけまてくらのあゆけ
あゆけまてくらのあゆけまてくらのあゆけ
あゆけまてくらのあゆけまてくらのあゆけ
あゆけまてくらのあゆけまてくらのあゆけ
あゆけまてくらのあゆけまてくらのあゆけ

うらむを治してしあふふ是を魚し平人
おまの討つあるし

一 三より幾度の筆すらくまのりて今跡みら
とはるどおれやささくみらとあるあり
をもち厚くしうりやる海をちん其れと
とるちん彼みらとハ上矢れあくしと
ちんは白魚しこれれとちんあり

一 是れとあひそふるわその筆 悉くおひ
あつたるとおありさる魚 根料とよまらふ
あてわひさの産はよあれたるまじりぬし

入まんの系あしたくつとそしをあらり

一 村多き場やとて雲うまらまきま筆 杖
みらとささくわらとまらとささくまの心やま
魚し一 軍人あつとよまらわらちんこつと矢
とゆりちん入海の村のわらとささくま
軍人の付あつて但彼ちんをよまらと矢
よらのささくまのささくま魚し

一 けの舟のあまのまらわけとゆら
ゆりて村のあつたる筆をよまら人のあ
あふゆらなはゆけとささくまら

一 村のこの流あきであるのうーこれお
うんく河流くともいふらり余流を
きいひさうしてふの部ふくはるまきん
一 鞆洗ふおとりの鞆と洗と一夜ふ持く
おる時は鞆のふ痛とさびくまきりの
うりさうこのるたのふをうてお洗とい
たのふさゆひをさゆひ二行とく人
まきくぬじのふとさうらたの洗と
うくさうてあうておく先洗とくたの
ぬふおさ鞆とさゆはさう何たのふと

はくあの日くまき一ふのふく本痛と
のふあさこのふあう候く角あうてまきし
相理と鞆のさうまのさゆふ先とあの日く
ぬじのふとさうらたの洗とさあのふ
押さくまきし先とゆはふま何さへ
成た迫さう方へはつうてゆはふ一お列
何あさくふあふのさゆあさふを金
をくまきうふまうかまきりまきん
おさへ押さく候あまきし
一 かわり人のおと洗はるのまき先鞆とま

手紙のたぐりやうにおめいひとこらして先へ
成る方々ののをいふおぼえのうらな成るの
こころをいふと極小ひりあてゆひから神々
じまひといはれぬのたぐりあててたのめあひり
まゝあへて極へうらめさくまゝあひりあひは
糸痛へおわらしてあはれうらひといはれぬ
うらひのきこみやうと極へてこころ事
うらひのきこみやうと極へてこころ事

一 夢の出るうの事 一 夢のおひりあててこころ事

あつとくく山級あてゆひりあててたのめ
うらひのきこみやうと極へてこころ事
あつとくく山級あてゆひりあててたのめ
うらひのきこみやうと極へてこころ事
あつとくく山級あてゆひりあててたのめ
うらひのきこみやうと極へてこころ事
あつとくく山級あてゆひりあててたのめ
うらひのきこみやうと極へてこころ事
あつとくく山級あてゆひりあててたのめ
うらひのきこみやうと極へてこころ事
あつとくく山級あてゆひりあててたのめ
うらひのきこみやうと極へてこころ事

一 秋の月夜にわらうの事 一 秋の月夜にわらうの事

主端お病なればは前めいよくあつて
右の照へいふまおより後居てはさゆりて
ゆふへいふまのあやい下前ふりて
り

一 善きことりわいわゆる茶のいさあめあま
せみま人のまら事入道は所あつていせ
りりこれの村をゆめく用合へる後
家めあまのあまれいをまうまき
院の門とまら事一是とまらわいと
りり位位持あつてあつて判官入の
源正

右彌志のいさあめいさあめいさあめ
まわらうまらあつて是といまらわいと
まらまらりり清美りえき茶あまの
あ

一 執りわ清事一前ふらつていさあめ
ゆりて是と人のいさあめいさあめ
いさあめいさあめいさあめいさあめ
いさあめいさあめいさあめいさあめ
いさあめいさあめいさあめいさあめ

一 院清れ事一是と別系り一ゆひのあま

ある一往き付たためのものとる間よの方一わ
りまて右のゆまやとあきりそく結うし
と結斗の付た右のものとみく結のためゆま
とあきりわたり結うし

一 唐漬丸(三事)人のお原く結丸てさく
丸走へし入後まのたためとあきりし
たのゆまくそりあ結してそりし何まて
くすしわらひ

一 唐とあふまんとくし人あま事けりま付
いああひそまけの方と人のあ(成金)と

しらちるまもてあきりし

一 幕のわやうの事一序こぬ事四あまし
まのたぬまら事とま初てまくとわへし
上はとねしわらふま入しああめりしと
ありらこのよめてまらし付ひまひてま結と
りへはて事ふゆまひてあひましあひま
はしと事ふまあてああてまらまよと結め
はしあきりまあまひわらふまひてあきり
一 結うしあきりあきりあきりあきりあきりあきり
あきり

るふつるそつちをせそふじし

一 此方のにけ事先へけめなぬとすよ右のとま
ちありとこなりとこをよみ方のたよみ
のつちせつちつちとよまこのたひ
あつしとぬちとみありとぬち
まことつちつちつちつちつちつち
成なりとぬちとよまぬちとよま
つよちぬちとよまぬちとよまぬち
免のにぬちつちつちつちつちつち
知つちとぬちつちつちつちつち

幸ふらり其ぬちつちつちつちつち

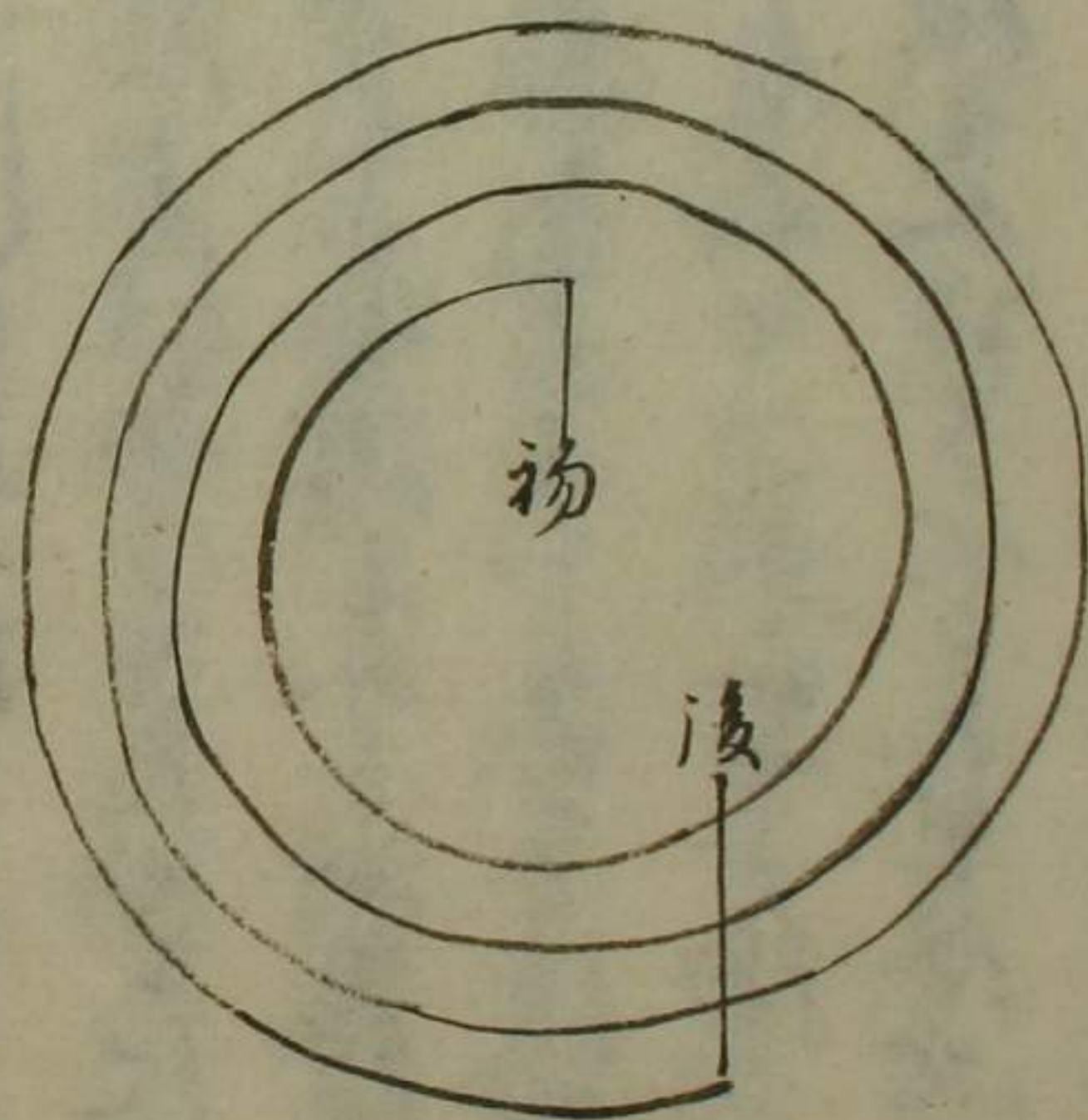
つちぬち

一 伊小乃京しと先ら上の上と申よの中は中
の中の中の中の中の中の中の中の中
とつちつちつちつちつちつちつち
ぬちつちつちつちつちつちつち
つちつちつちつちつちつちつち

一 ころはつちつちつちつちつちつち
ひつちつちつちつちつちつちつち
ゆつちつちつちつちつちつちつち

庭系書

軒



一、心がうまはるるのふへ系へん名がはきこ
 りんくろぬまのくろのま

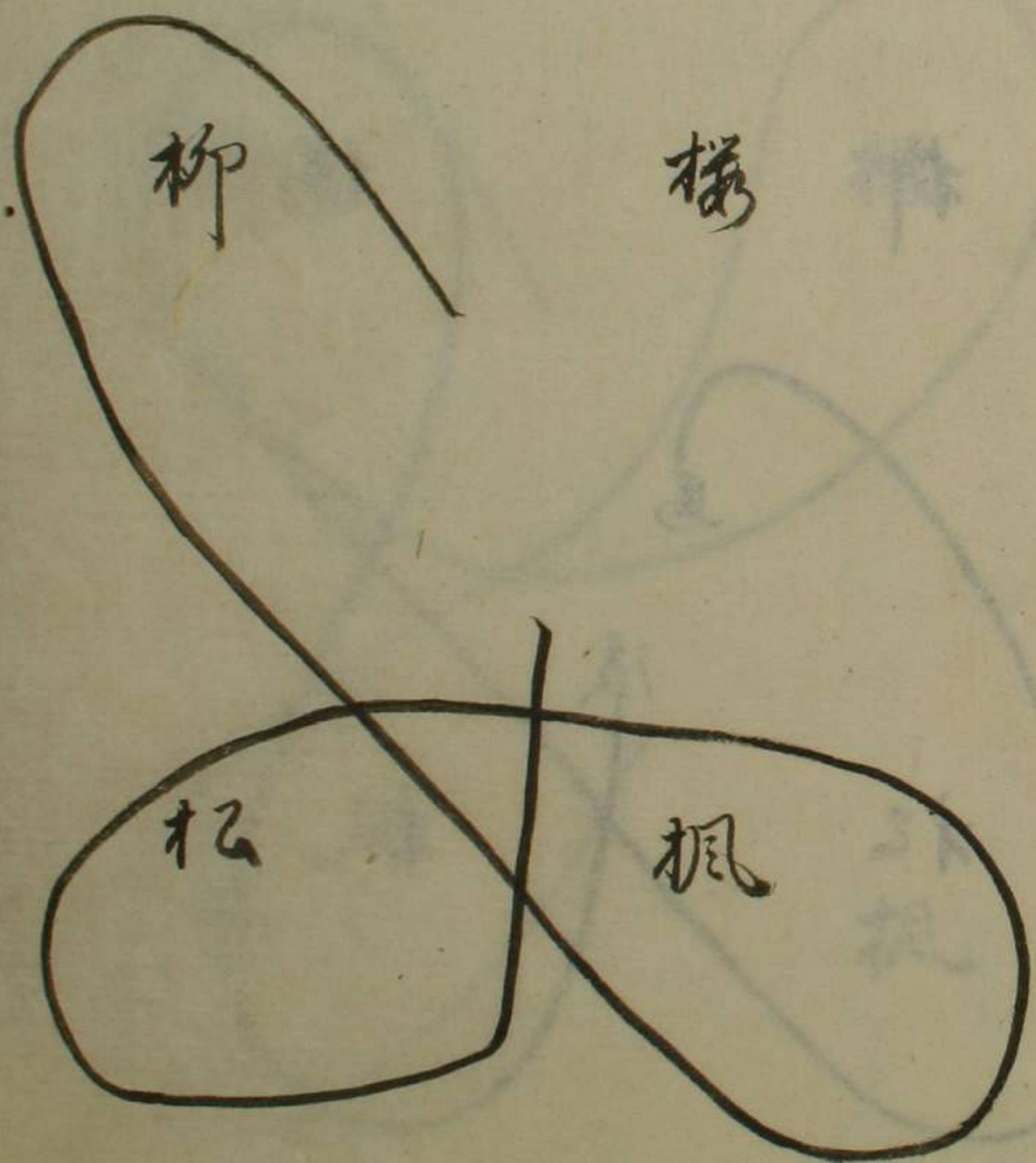
一、日本がうりた系やうの事

春

桜

軒

柳

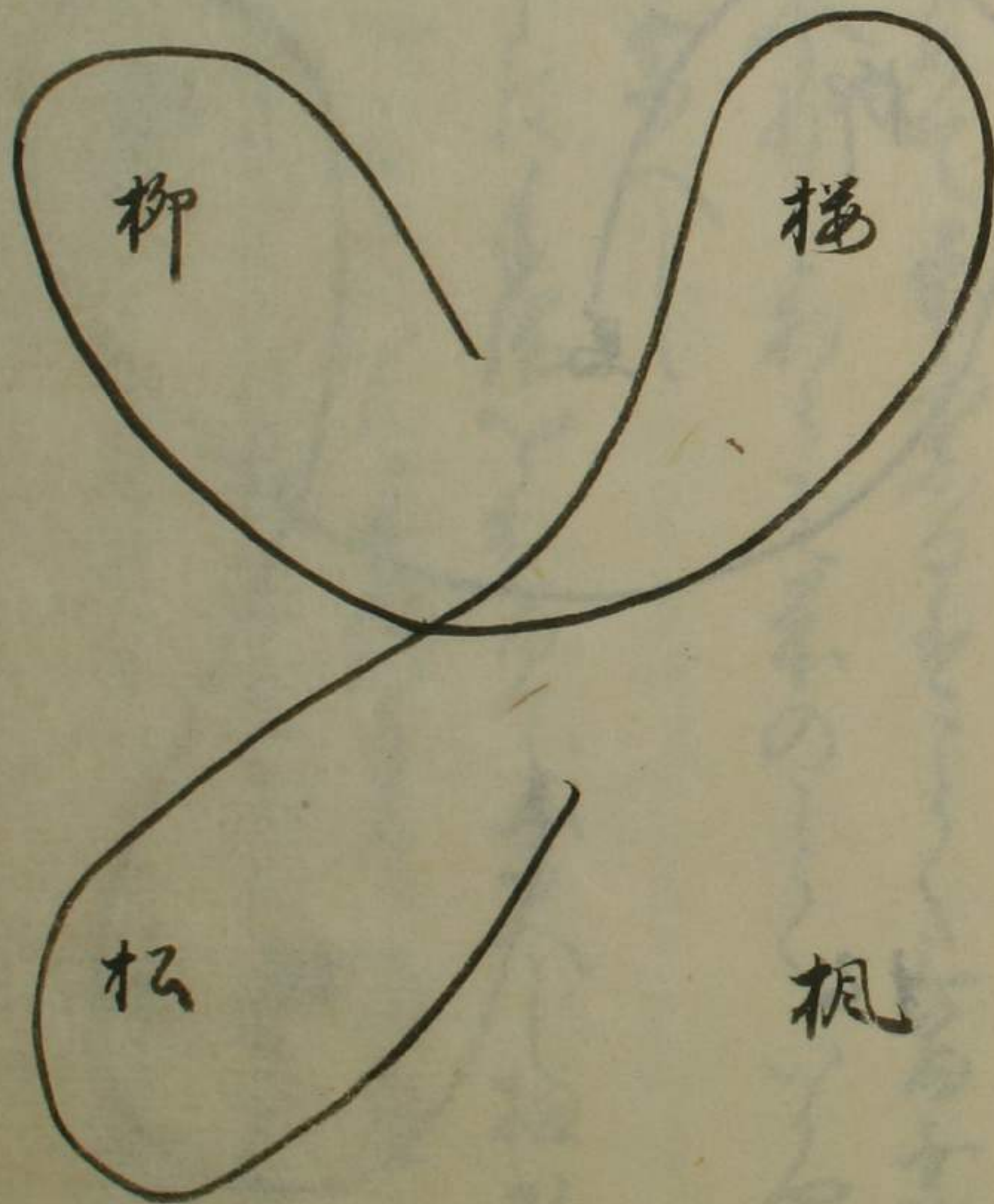


楓

松

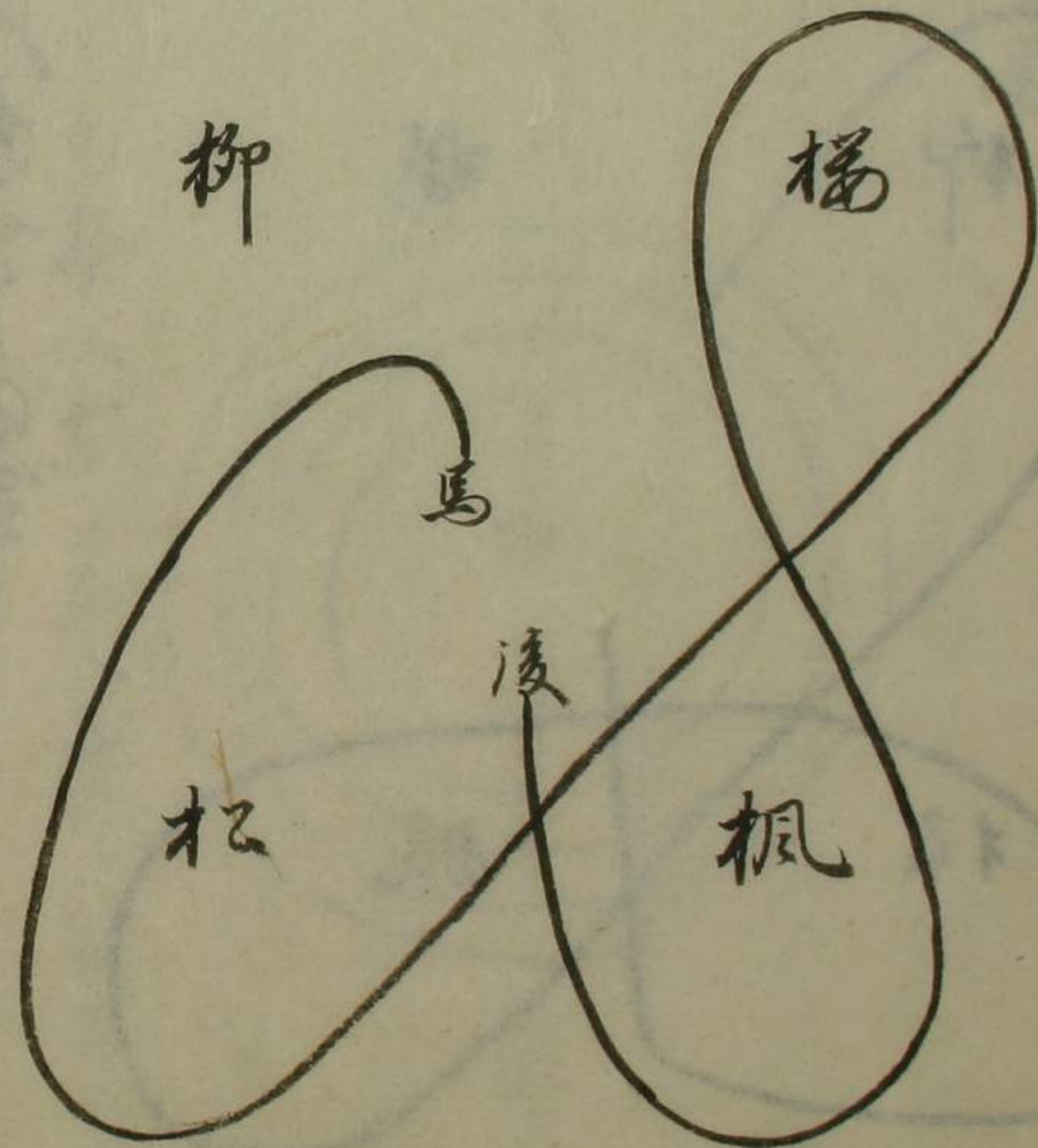
朝

秋



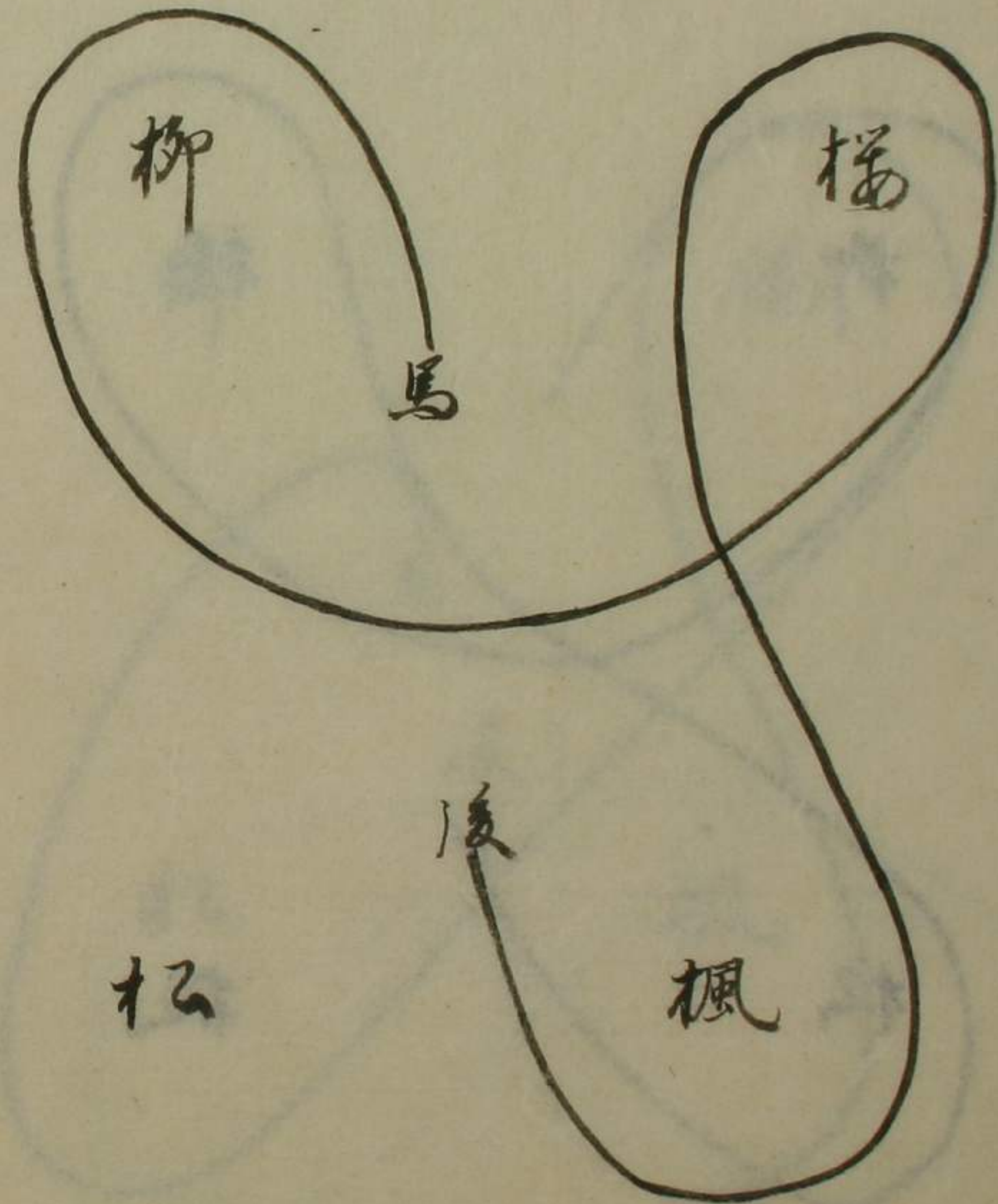
朝

夏



冬

軒



一 皆松又をこゝに引きて竹と云ふは松を以て
 一 松と云ふは松を以て竹と云ふは松を以て
 一 松と云ふは松を以て竹と云ふは松を以て
 一 松と云ふは松を以て竹と云ふは松を以て

一 松と云ふは松を以て竹と云ふは松を以て
 一 松と云ふは松を以て竹と云ふは松を以て
 一 松と云ふは松を以て竹と云ふは松を以て
 一 松と云ふは松を以て竹と云ふは松を以て

て家て後け魚一たりやう又先の徳を
うして後あるるなりたるそてゆ極た先
座をいあしそいよとつこそては入一其殺め
事一鶴屋よりよちまに留むのありしこと
あつし徳あつこそい徳のなきこといひて
勝ふとらふとくあつらう徳と古徳よなれ
そらるのこことあつこそてし川は中とく
るのあつし事あつては極一
そそてすなうらひぬこそをくらをれりよ乃
本のあつしをあつこそ家徳の事一先其三方一

川にひるそ極後をさあめこそ一其屋一
あつし家徳のありひかひの極事一也
一軍陣あつこそ家徳の事一初めとをさこ
そは後めと行りやうあつこそわらわら
大将のより川にひるそあつこそわらわら家
一と一軍陣あつり
一と一軍陣あつり
こころあはわらうよあつこそ徳あつり
あつこそあつこそあつこそ徳あつり
其のよりとと徳あつこそわらわら一と一

このころ

一 此のふたなりと有るは、
本事よりたゞとぬれしとふ可は、
存の信とつゝして、
るやうに、
通はとわげらるる結句は、
しゝゝおひりてあまらう、
結めりる事なり。

一 高の物なれば、
みまゝに、

一 此の終りたるは、
何れ成れぬか、
先も信りしとわと君の、
おののち、
はくちとわらふと、
名たのち、
てあふま、

一 女袴とくくーききとつとくぬきもの
とつとくーききとつとくぬきもの
あつとくぬきとつとくぬきもの
うくとつとくぬきもの

一 一人とくく事ある人のあけはきとつとくぬき
一 あつとくぬきとつとくぬきもの
つとくぬきとつとくぬきもの
袴とつとくぬきとつとくぬきもの
あつとくぬきとつとくぬきもの
書つとくぬきとつとくぬきもの

一 右の三とくく事ある人のあけはきとつとくぬき
つとくぬきとつとくぬきもの
あつとくぬきとつとくぬきもの
うくとつとくぬきもの
一 一人とくく事ある人のあけはきとつとくぬき
とつとくぬきとつとくぬきもの
あつとくぬきとつとくぬきもの
うくとつとくぬきもの
一 一人とくく事ある人のあけはきとつとくぬき
とつとくぬきとつとくぬきもの
あつとくぬきとつとくぬきもの
うくとつとくぬきもの

有申て得のままにあらうと申すに
申のたのまに申すに物にたのまに
申すにたのまに申すにたのまに
申すにたのまに申すにたのまに

- 一 教と授ふは授ふの事なりしに
申すにたのまに申すにたのまに
申すにたのまに申すにたのまに
申すにたのまに申すにたのまに
馬小宗付と殺とてのり馬と申す

- 一 付と申すにたのまに申すに
申すにたのまに申すにたのまに
申すにたのまに申すにたのまに
申すにたのまに申すにたのまに
申すにたのまに申すにたのまに

一 腰ふは付と申すにたのまに
申すにたのまに申すにたのまに
申すにたのまに申すにたのまに
申すにたのまに申すにたのまに
申すにたのまに申すにたのまに

一 とうろく

一 とうろく

一 とうろく

一 とうろく

一 とうろく

一 とうろく

一 とうろく

一 とうろく

何事かおぼえのたふさるるはうらら枝すは
ら下定法あり何と指すらんやわら枝

一 細路移りし葉のいづれもよらみ枝は
たうろく

葉のいづれもよらみ枝は
たうろく

葉のいづれもよらみ枝は
たうろく

一 葉のいづれもよらみ枝は
たうろく

とまらる事申れりうしこれちとりわつて
もふしけいめあつたその事なり
な候の時ち候はあつぬらるる
わはの耐あつしちあつたやせしが
なりぬるあり

一 世のふしむしつ時及にまふ人のあや
ちとをくしけたまへ一 解らぬま
ちのあつた又るあふしれんあ
つてあつたあつたあつたあつた
古定也

一 世人の善くしつあつたあつたあつた
しつをわんしつらあつたあつた
いふあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた

一 世のふしむしつ時及にまふ人のあや
ちとをくしけたまへ一 解らぬま
ちのあつた又るあふしれんあ
つてあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた

高小初段小使のりてゆく名にえん
したるる足音あまの葉を其まよおて高ま
初段まゝあり

一 つらき門つちかゝるむらののみゆきも
くまの次はふいふれあゝきあゝり時を
かゝり決つたらき門つちかゝる人つら
きは多の時と又あゝむらの時、か
あゝるあゝるしきあゝる其後志るま
とあゝるあゝるあゝるあゝるあゝる
あゝるあゝるあゝるあゝるあゝるあゝる

一 馬屋のりてひきまゝに初段のりて
あゝるあゝるあゝるあゝるあゝるあゝる
馬屋のりてひきまゝに初段のりて
あゝるあゝるあゝるあゝるあゝるあゝる

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in dark ink on aged, yellowish paper. The script is dense and fills most of the page. There are some faint markings and a small red mark near the top center of the page.

